

里やまアワード プレゼンテーション

発表：野口 功

松戸の里やまボランティア入門講座は、2013 年以來 17 年間続いています。今 18 回目を開催中で、34 人も受講申込がありました。抽選に外れた方には、「一日里やま体験講座」を予定しています。講座からはこれまで 14 の里やま活動団体が生まれ、活動日の累計は 3600 回を超えました。緑を守る市民の活動が着実に広がっています。何がこれを生み出してきたのか、講座の創意工夫と松戸の里やま活動の特徴の二つの面からお話しします。

まず、講座について

第一は、みどりにかかわる多様な主体の連携の力です。

講座は、市民と行政、それをつなぐ中間支援組織、森の所有者、大学関係者が、それぞれの資源を持ち寄ることで成り立っています。企画運営の中心は里やま応援団の会員ですが、松戸市も全面的にバックアップしてきました。

メインとなる講義は二つ。「里やまって何だろう」は里やま活動メンバーが、「都市の緑の役割」は千葉大学園芸学部の先生に講師をお願いしています。行政からは「松戸のみどりの現状」の話があり、森の所有者からは森を維持する苦勞が語られます。経験豊かな中間支援組織のメンバーがグループワークを担当し、森の現地では、その活動団体が案内、説明をしてくれます。こうしていろいろな立場の方がかかわることによって、都市の森の様々な課題や森を維持する多方面の努力が浮き彫りになってきます。私は講座の二期生ですが、受講する前は、「松戸に里やまなんてあるのか」「どうせ良い条件で売れるのを待っているのだろう」くらいに思っていました。講座を受けて、豊かな自然が残っていること、少なからぬ地主さんが森を残したいと思っていること、管理が行き届かず近隣から森が迷惑がられ、所有者は苦情に耐えかねていることなど、意外なことを知りました。それなら管理のお手伝いをしようか、どうせリタイアして暇だし、自分も楽しめるし、という気持ちになりました。

二つ目に強調したいのは、講座を修了して里やま活動を始めた市民が、今度は講座の担い手として主要な役割を果たしていることです。市民側スタッフは、毎年応援団全体に募り、自主的に参加してきた人で構成されます。スタッフとして講座に参加することで、受講した時には理解しきれなかったことが、改めてよくわかったというのが共通した感想です。

企画運営の中心となるメンバーは毎年交代し、当年のサブスタッフが翌年のメインスタッフを務めてきました。これにより、継承が図られるとともに、新たな感性が吹き込まれます。講座の企画運営は、松戸のみどり全体に目をむけ、それをどう守っていくのか、里やまボランティアがどうあるべきなのかなど、広い視野が求められます。講座は、新しい里やま活動家を生むだけでなく、リーダーを育てる大きな役割を果たしています。

三つ目は、講座の目的・理念です。松戸の里やま講座は、特定の森での活動の担い手の養成を目的とはしていません。緑の現状や問題を理解し、その保全への努力を知ってもらい、その人なりに松戸のみどりにかかわっていくきっかけとなることを目指しています。

講義は最小限にとどめ、森を見ることとグループワークを重視しています。2 回のグループワークでは「こんな森があったらいいな」「自分は森にどうかかわれるか」というテーマで話し合い、自ら考え 発信することを求めています。受講者相互や先輩ボランティアとの交流・親睦の場ともなり、講座終了後の団体設立につながっていきます。

次に、松戸の里やま活動の特徴をお話しします。

松戸の里やま活動で一番誇れることは、すべての里やま活動団体が連携して活動していることです。講座から生まれた14の団体は、それぞれが独立して活動しながら、松戸里やま応援団として連帯しています。応援団は、毎月連絡会を開いています。各団体からは毎回の活動報告が配信され、松戸市や他の里やま団体にも情報が共有されています。

こうした日常的なつながりは時に大きな力を発揮します。この夏、松戸ではナラ枯れ被害が大発生しました。ある会の活動記録でナラ枯れの疑いが報告された翌日には応援団から各森に調査依頼を発信、その結果を受けて ちば森林研究所の専門家を招いて講習会を実施しました。その4日後には簡易トラップをみんなで作り、数日のうちに400枚近くのトラップを設置することができました。応援団で作ったトラップは、松戸市の公園でも試験的に活用されています。

こうした連携は、応援団以外の里やま団体を含めたネットワークに発展してきました。

松戸市では、2012年から、里やまボランティアが活動する民有林を一斉に公開するオープンフォレストを開催してきました。市内すべての里やま活動団体と森の所有者団体で実行委員会をつくり、松戸市との共催で実施していますが、ポスターの起案や来訪者のアンケートの分析などには千葉大学園芸学部の学生の若い力が発揮されています。昨年には、里やま活動団体の他、地域活動をしている学生グループ、森の利用団体など幅広い参加で松戸みどりのフォーラムが開催され、ネットワークのさらなる広がりが模索されています。

次に報告したいことは、森を活用する新たな活動の広がりです。

都市部の里やま活動は、森の整備とともに、それを都市生活に活かすことが重要な柱になっています。各会が独自に森体験の受け入れなどに取り組んでいますが、特徴的な二つの事例を報告します。

一つは、応援団全体で担当している森での若いグループの活動です。名前は Save the Green@AKIYAMA。毎月、森で楽しむ様々な催しを企画し、フェイスブックで参加を募集し、子育て世代の親子連れが参加しています。ネイチャーゲームや森ヨガ、タケノコ掘りやクリスマス会、あるいは焼き芋やピザを焼く時もあります。そして、必ず「森への恩返し」と名付けて、落ち葉はきや草刈り、植樹などの作業も取り入れています。普段、森とかかわることのない若い人たちが毎回新しく参加するとともに、リピーターも増えてきました。

もう一つは、子育て支援団体などと連携した活動です。子どもとまつどが、毎年4カ所の森で親子の森体験イベントを行っています。今年は新たな試みとして10団体で協働して「秋の囲いやまの森であそぼう」という催しを計画しました。それぞれの団体がノウハウを発揮して森でさまざまな遊びや発表の場を提供するという企画です。森を活かす新たな展開の芽を包含しており、そのつながりが今後どのような発展をみせるか楽しみです。

今後の課題

以上のとおり、松戸の里やま活動は、20年近くにわたって着実に発展していますが、課題も多く残されています。一番の問題は会員の高齢化です。毎年の講習で新しい人が加わっているとはいえ、早期に設立された団体では平均年齢が70歳を超えています。他方、森の木々は年々大きくなり、作業の困難も増してきます。個々人に培われてきた知見や技術を全体に普及し、どう継承していくかは切実な課題です。

これまで松戸里やま応援団は、個別団体の連絡・協調の組織として運営されてきましたが、もう一步踏み出して、組織的に対応できる体制が必要となっています。そのための組織改革案を提案し協議中であります。

ちば里山アワード応募原稿

活動団体名	松戸里やま応援団・松戸市みどりと花の課（共催事業）
活動の名称 ・テーマ	里やまボランティア入門講座から里やま活動への展開
活動場所	【面積】森林 140,000㎡
応募方法	☒ 自薦 ・ 他薦 ※いずれかに○印
活動実施 期間	(応募活動の実施期間) 2003年7月 ～ 現在継続中 (団体等の活動期間) 2004年3月 ～ 現在活動中
団体等の 概要	構成員 14団体 約200人、構成員内訳() 団体等の種類 ☒ 任意団体 NPO・企業・学校等・その他() ※いずれかに○印
事業の内訳	収入 計 126 千円(内訳:会費 千円、事業収入 60 千円、補助金等 66 千円)
	支出 計 126 千円(内訳:事業費 126 千円、管理費 千円)
活動の割合	里やまボランティア入門講座の会計は、里やま応援団とは別会計になっている。

活動のきっかけ・目的	*応募活動のきっかけとなった地域の課題とそれを解決するための活動の目的。(200字以内) 1966年に800haあった松戸市内の民有樹林地が、35年後の2001年には150haに減少した。こうした状況下「これ以上みどりを減らしたくない」「次の世代に良好な自然環境を引き継ぎたい」との思いを市民、所有者、行政が共有し、樹林地への理解、保全活動につなげていくために、2003年に「松戸市緑推進委員会」（市長の諮問機関）の発案で当講座を開催。以降現在まで、市民と行政の協働で毎年開催している。
活動の概要	*活動内容を具体的に記載。 1) 里やまボランティア入門講座は、毎年秋に 松戸里やま応援団と松戸市街づくり部みどりと花の課との共催で開催・運営、これまで17年継続して開催し、本年も18回目の開催を計画している。 2) 里やまボランティア入門講座プログラム（2020年はコロナ対策で改訂予定） 講義：①里やまってなんだろう、②都市の緑の役割、③身近な緑と行政の関わり ④都市の里やまとボランティア活動、⑤森での安全作業 ⑥森の所有者と先輩ボランティアの話を聴く 見学：矢切斜面林ウォーク、放置された森とボランティアが活動する森 体験：里やま整備活動体験、森の遊び体験 グループワーク：「森の遊び場づくり」「これから私がしたいこと」 提出：今日の振り返り、絵日記 3) 講座後のフォローアップ ①受講生が主体的に次の行動に進められるよう、交流会を開催 ②新団体が設立されたら、ボランティアによる整備を希望する地主の森を紹介 ③新団体の活動開始にあたって、フォローアップ講習を実施 「安全作業（道具の選び方・使い方・手入れ方法など）」「里やまの自然の姿」「里やまボランティア活動（考え方・作業の手順や計画づくりなど）」

	④スタートの資金として応援団から3万円援助。 その他、先行団体からの道具の貸し出し、初期作業の応援など
	*活動の実施に際し、特に創意工夫をこらした点について記載。
	①市民・所有者・行政・中間支援団体（松戸まちづくり交流室）・千葉大学が連携してそれぞれの役割に応じて資源を出し合っている。特に、企画運営は過去の講座を修了し実際に整備活動を経験してきた市民ボランティアの有志が主に担い、行政は下支えに徹している。 ②市民側スタッフは毎年順次交代して 中心的な役割を担っている。 ③講座プログラムは既成のものではなく 自分たちで考え、毎年見直してバージョンアップを図っている。 ④知識や技術を学ぶことより、都市の緑の現状や課題を知って 問題意識を持って活動に参加してもらうことを主眼としている。 ⑤特定の活動への誘導ではなく、受講生が主体的に活動に踏み出すきっかけとなることを目指している。 ⑥受講者の意見交換や交流、里やま活動を楽しむ体験を通じて、受講者が自主的に活動へ向けた仲間づくりができるプロセスを重視している。
成果	*現時点での活動の成果を記載。 ①毎年、講座修了生が自主的に里やまボランティア団体を立ち上げ、みどりと花の課の斡旋で森の所有者と取り決めを結び、新たな森で活動を開始している。 （これまでに14団体、約200人。内13団体は民有林で活動） ②講座の企画運営の経験から新たなリーダーが育っている。 ③講座を通じて設立されたすべての団体が 独立して活動しつつも松戸里やま応援団としてネットワークを構成し、連携して活動している。 ・毎月連絡会を開催し、共通する課題などを協議。 ・すべての会が毎回の活動報告を作成し、応援団全体で情報を共有。 ・会員のスキルアップを図る「ステップアップ講座」を適宜開催。 （安全・技術、自然生態、関係制度、近隣団体の活動視察など） ・台風被害木の処理やナラ枯れ対策など、個別の会単独では困難な課題への対応。 ④松戸市と連携し、広く市民に森の魅力を伝え、緑の大切さへの理解を広げる活動が発展している。 ・2012年から、ボランティアが活動する市内の森を市民に一斉に公開する「オープンフォレスト in 松戸」を開催。森の散策や遊び・森めぐりツアー・森の文化祭などに毎年約2000人の市民や子どもたちが参加。 ・市内大規模イベント（「緑と花のフェスティバル」や「松戸モリヒロフェスタ」）への出店協力。子ども対象に工作体験などを実施。 ・放課後児童クラブへの支援 （七夕用笹竹の提供、夏休み竹工作の指導など） ⑤個々の団体のみならず、里やま応援団総体としても1カ所の森の保全・整備活動をしており、その森が技術・経験を共有する場となっている。また そこでは、若いグループ（Save the Green @Akiyama）が誕生し、里やま応援団の協力のもとに子育て世代を対象にしたバラエティーに富んだ森の体験活動を企画し、幅広い地域から親子連れが参加している。 ⑥松戸市内での活動だけにとどまらず、柏市・市川市など近隣地域の里やまボランティア団体との交流も行われるようになってきている。

	⑦こうした松戸の里やま活動の発展は近隣市からも注目され、類似の講座の開催や里やま活動団体のネットワーク構築が広がっている。 活動は全国的にも評価されて2010年度の「緑の都市賞」で松戸市が国土交通大臣賞を受賞。オープンフォレストの取り組みも2016年度全国「みどりの愛護」のつどいで国土交通大臣賞を受賞するとともに、2019年には「おいでよ！ちばの里山キャンペーン」として県内各地に広がっている。 *活動の成果として、地域の活性化に繋がったものについて記載。 ①各森では学校・幼稚園・保育所・子育て団体などの森林体験を受け入れ、自然教育などに貢献している。 ②菜園を開拓しているところでは、家族連れや子どもたちを対象とした野菜づくりや収穫体験イベントを実施し、好評を博している。 ③森が明るくなり、苦情やゴミの不法投棄も減少している。 ④周辺住民による林辺美化への協力や、森の活動への入会も増えている。
今後の計画	*活動の課題点や活動を発展させるための今後の活動計画について記載。(200字以内) 講座は継続的な開催が大切であり、今後も新たなスタッフへの継承を図って行く。SNSの活用などでPRを強め、より広い層の受講をめざす。また団体設立後の入会者との意識のずれもあり、新規会員にも入門講座の受講を勧めていく。里やま活動は高齢化が大きな課題で、より多様な形で里やま活動の魅力を発信し、若い力が入ってくるよう努めたい。松戸里やま応援団を現在の連絡組織からもう一段発展させる体制強化を検討していく。



森で開催する里やま講座は森の活動紹介



伐倒の実演・安全作業の注意・作業体験など



幼稚園児もやってきて森で自然体験

